

問1 漁港でとれたばかりの魚が集められ、買い手が値段を決めるために「せり」を行う場所を何といいますか。

1. 魚市場 2. 冷凍庫 3. 水族館 4. スーパーマーケット

問2 国や自治体が、魚の量や期間を制限するような「漁獲規制」を行う一番の目的は何ですか。

1. 将来にわたって魚をとり続けるため 2. 魚の値段を高くするため 3. 新しい漁場を発見するため 4. 外国との貿易を活発にするため

問3 農家が「産地直送」でお客さんに商品を届けることで、どのような良いことがありますか。

1. 農家が商品を運ぶ必要がなくなる 2. 市場でのせりを行うことで価格が高くなる 3. 中間にかかる費用をへらして新鮮なものを届けられる 4. 市場を通すよりも時間がかかる

問4 直売所の特徴として、もっとも正しい説明はどれですか。

1. 世界中の珍しい食材が集まる 2. スーパーより鮮度が高いものが多い 3. いつでも必ず同じ野菜が買える 4. スーパーより必ず値段が安い

問5 林業で、木が十分に育ったあとに、それらを切り出して木材にする作業を何といいますか。

1. 間伐 2. 枝打ち 3. 伐採 4. 植林

問6 遠洋漁業の生産量が、1970年代から大きく減り続けている主な理由は何ですか。

1. 日本の近くの海に、プランクトンが急に増えたため。 2. 船を動かすための燃料が、世界中で使えなくなったため。 3. 魚を卵から人工的に育てる技術が広まったため。 4. 排他的経済水域の取り決めなどができたため。

問7 漁業資源を守るために、国や自治体が行っている「とれる魚の量や期間を制限する」取り組みのことを何といいますか。

1. 漁場の拡大 2. 乱獲の促進 3. 漁獲規制 4. 魚の養殖

問8 ビニールハウスなどの施設とあたたかい気候を利用して、ふつうよりも早い時期に野菜をつくり出荷する栽培方法を何といいますか。

1. 抑制栽培 2. 促成栽培 3. 有機栽培 4. 二毛作

問9 群馬県や長野県の高原地域で、夏から秋にかけてキャベツやレタスをたくさん出荷しているのは、なぜですか。

1. 平地では野菜が育たないから 2. 平地よりも一年中気温が高いから 3. 雨がほとんど降らない地域だから 4. すずしい気候を好む野菜を、夏に育てることができるから

問10 「地産地消（ちさんちしょう）」とは、どのようなことですか。

1. 売れ残った農作物を捨てずに保存すること 2. 地元でとれた農産物を、その地域で消費すること 3. 遠くの大都市へ農作物をたくさん送ること 4. 外国から安い農作物をたくさん輸入すること

問11 人工的に育てた稚魚を、ある程度の大きさになるまで守ってから海や川に放し、自然の中で成長させてからとる漁業のことを何といいますか。

1. 栽培漁業 2. 遠洋漁業 3. 沖合漁業 4. 養殖漁業

問12 畜産のなかでも、特に乳牛を飼育し、牛乳やバターなどを生産する仕事を何といいますか。

1. 促成栽培 2. 酪農 3. 水産業 4. 林業

問13 遠くの海で行う漁業で、1970年代から生産量が大きく減り続けているものはどれですか。

1. 沿岸漁業 2. 沖合漁業 3. 遠洋漁業 4. 養殖業

問14 暖流と寒流がぶつかり、よい漁場となっているところを何といいますか。

1. 海溝 2. 干潟 3. 大陸だな 4. 潮目

問15 昔と比べて魚の生産量が減っている中で、養殖漁業がさかんに行われるようになった一番の理由は何ですか。

1. 魚を計画的に育てて、安定してとどけるため 2. 魚を大きく育てるためのえさを海から集めるため 3. 他の漁業よりも働く時間が短くてすむため 4. 海を汚さないため

問16 畜産で生産されるもの（つくられるもの）の組み合わせとして、正しいものはどれですか。

1. 肉や牛乳、卵 2. 魚や貝、わかめ 3. 野菜や果物、米 4. 木材や炭、きのこ

問17 栽培漁業において、わざわざ稚魚を育ててから自然の中へ「放流」するのはなぜですか。

1. 海や川の水をきれいに掃除してもらうため 2. 魚が小さいうちに食べられないように守り、漁業資源を増やすため 3. 魚を人間に慣れさせて、とりやすくするため 4. えさ代を浮かせて、より安く魚を売るため

問18 農家の人々が集まって、農業のやり方を教え合ったり、農作物をまとめて売ったりする組織のことを何といいますか。

1. 農業協同組合 2. 農業試験場 3. 農村自治会 4. 農家連合会